

○12 番（古川盛義君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので一般質問を始めたいと思います。

お昼のお疲れのところ、お付き合いを願いたいと思います。寝てもらっちゃ困ります。

まずですね、通告の1番目に武雄温泉楼門100周年事業についてお尋ねをいたしたいと思います。

辰野金吾氏が設計をされた東京駅が本年12月に100周年を迎えることとなります。来年がですね、武雄温泉楼門が100周年ということでございます。まあお隣の有田町も再来年、有田焼創業400周年ということで、ちょうど楼門の100周年がその間に入るということでございます。当局としてどのようにこの100周年をお考えなのか、まずお尋ねをいたします。

（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この100周年というのは、大きな話だと思います。今のところ私どもが考えておるのは所有者の武雄温泉株式会社と十分相談をするっていうことが前提なんですけれども、1つはライトアップを変えたいと思っています。今LEDでライトアップっていうのは自由に変えられますので、まあ当時のあの辺ガス灯だったんですね。ガス灯だったんであの当時の実際の100年前の、まあライトアップじゃないんですけどね、そういう色調に合わせて行いたいっていうことがまず1つ。

それと武雄市図書館で大々的に武雄温泉楼門展を行いたいと思っております。武雄市図書館でね、できる限りあそこ今一番発進力ありますので武雄市図書館でも行いたいと思っております。

そしてあわせてではありますけれども、これはこれからちょっと相手がある話ですので精力的に調整をしてみたいと思っておりますけれども、辰野金吾博士がつくられた、例えば東京駅であったりとか奈良ホテルであったりとか日本銀行だったりとか、あわせてそういった施設、建物と連携してイベントが組めるかどうかっていうことも含めてちょっと投げかけをしたいと思っております。この企画についても十分ちょっと1年ぐらいかけて、いろんな関係者、特に武雄温泉株式会社と連携をしながらそういった企画も打ち出してみたいと思っております。

ですので、これ100周年であったときっていうのはもう武雄に来ればね、武雄温泉に来れば、お越しいただければね、ああもう100年なんだというふうにわかるようにぜひしてみたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

12番古川議員

○12 番（古川盛義君）〔登壇〕

あのですね、武雄を全国にPRするですね、いいチャンスであろうと思います。とにかく今市長が一生懸命ですね、武雄をメジャーにするということで頑張ってください。ですが、まだ今からまだまだPRできる部分が残っておろうと思うわけでございます。その1つが、楼門の100周年も1つのチャンスなのかなと思っております。

そこでですね、図書館とかいろいろ市長が今言われましたが、具体的にどのようなその方策っちゃうですか、PRのパンフレットとかいろいろそういう部分があると思いますが、どのようにお考えなのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これについてはありとあらゆる媒体を考えております。ですのでそれはこれからね、いろんな企画を出したときに例えば雑誌社であったりとかテレビであったりとか、なるべく私もそのお金をかけずしてね、連携できるところと御一緒にやってまいりたいというふうに思っております。

そして先ほど言い忘れたんですけれども、実は因縁の辰野金吾博士の因縁の場所が1つあって、今で言う、ごめんなさい、清香奨学舎ですね、あそこが実は辰野金吾さんのところから破門になった遠藤新さんという方が実はそのこの専門のところを、実は廃材等を活用してつくっておられるということなんですね。実際アメリカに遠藤新さんが、まあ、あの当時飛ばされたってということになるんですけれども、そこで帰国した後の作品でその作品も武雄にあるということですので、単に例えば東京駅とか日本銀行と結びつけるんじゃなくて武雄の中でもね、そういったその因縁のところもありますので、そういう意味ではあわせて皆様方に御提供ができればいいなというふうに思っております。

いずれにしても、ありとあらゆる媒体を活用してうまくPRができるようにね、古川盛義議員のアドバイスもいただきながらしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

12番古川議員

○12番（古川盛義君）〔登壇〕

あのですね、先ほども会場からお声がありましたとおり武雄温泉も私企業であります。それで楼門も多分その武雄温泉株式会社の持ち物でございます。ですからそこら辺でですね、十分協議をいただいて武雄市内の各種団体ですね、総ぐるみでとにかく武雄のPRを兼ねてイベントが成功できますように、とにかく御協力をいただきたいと思います。

次に障がい者福祉の質問にまいります。

障がい者優先調達推進法というのが25年4月1日に施行され、国、県、市は物品等の調達に当たって毎年度調達方法を定め、障がい者支援施設から優先的に物品を調達することと

されております。

昨年6月議会で松尾陽輔議員より質問がありましたが、現在どのように対応しておられるのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

ただいまお尋ねがありました、本市における障がい者就労施設等からの物品等の調達の状況ということでございますが、平成25年度の実績であります、調達の内容といたしましては、配食サービスの業務とか植栽管理業務、それとかトイレの清掃業務、ポスター印刷、こういった内容で、額としては1,027万2,320円という調達の実績になってるという状況でございます。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

12番古川議員

○12番（古川盛義君）〔登壇〕

1,000万以上の発注をいただいておりますということで、まあ安心はしたところでございますが、武雄市内にもたくさんの障がい者支援の施設がございます。そこでは障がい者の一般企業への就労を目指して努力していただいておりますが、一般企業にですね就職となるとなかなか厳しいということでございます。

そこで今年よりですね、佐賀県では、就労の意欲があってもさまざまな要因で就職に至らない障がい者や難病者に対してですね、就職先の開拓とあわせて就業の機会を創出するレッツ・チャレンジ雇用事業というのが行われております。どのような内容のものか、あわせてこの事業にですね、行政としてどのように取り組まれていくのかお聞かせをいただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

中野くらし部長

○中野くらし部長〔登壇〕

ただいまのお尋ねがございましたレッツ・チャレンジ雇用事業ということで、佐賀県のほうで展開されている事業でございますが、これにつきましては就労の意欲があっても、いろんな要因によりですね、まだ就労に至っていない障がい者の方、難病患者の方に対して佐賀県のほうで就労先の開拓とあわせて就業の機会を創出するという事業でございます。

基本的には一般企業への就労を支援するという制度でございます、現在展開されてるところでございますが、ほかの制度等利用された障がいをお持ちの方は市内ではまだいらっしゃらないという状況でございます。

この制度についても武雄市役所、市について、公的機関についての適用するのはございま

せんで、市のほうについては障がい者の雇用の促進等に関する法律、これに基づきまして法定雇用率2.3%、従業員に対しての2.3%というふうになつとりますが、この率を守りながら現在行っているという状況でございます。以上であります。

○議長（杉原豊喜君）

12番古川議員

○12番（古川盛義君）〔登壇〕

あのですね、障がい者支援というのは大切な事業でございます。市としてもなお一層の支援をお願いしておきます。

次にですね、教育問題でございます。

4月から市内の小学校にタブレットが導入されまして、スマイル学習というのが行われております。5月の30日に山内東小学校、武内小学校で公開授業が開催され多くの参加者が来られ、まあテレビ、新聞等で報道されております。

まずですね、1つ私お尋ねをしたいんですが、以前反転授業といいよった分がですね、今年の4月からスマイル学習というのに変わるとるわけですね。なぜ変わったのかちょっとまずお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

（モニター使用）なぜ4月からスマイル学習に変わったかという話なんです、まずそもそも反転授業というのはどういう言葉なのかというのを御説明させていただきたいなというふうに思います。

フリップトクラスルーム、これは10年ほど前からですね、アメリカで非常に効果のある学習手法として特に落第生、落ちこぼれがどんどん少なくなるという学習手法として、フリップトクラスルームという学習手法が注目されました。このフリップトクラスルームを初めて翻訳された方がですね、こうひっくり返すという意味合いで反転授業というふうに命名したのがきっかけです。

繰り返しになりますが、そのフリップトクラスルームというのは従来学校で授業して自宅で復習しましょうという従来型の授業を、その役割を逆転して自宅で予習をして学校では復習しましょうとこういうスタイルで、まあいわゆる役割をひっくり返したと。そうすることによって、落第率やわからない子がどんどんわかってきたというのがこれアメリカでのスタイルです。

こういった手法を日本でも取り入れようという試みはあったんですが、武雄の場合はですね、この半年間どんなトライアルをしてきたかというですね、もっともっと精査に授業を組み立てようというふうを考えてやってきました。

つまり普通の授業は今御覧になっていただいているように、学校の45分なり50分の授業は大体最初に先生方が「きょうの授業の狙いは」って黒板に書くわけです。この問題について1人で考えてみようという形で1人で学習します。そして先生が解き方なりを教えて、それをグループで話し合ってみましょう。で、まとめ。

これが大雑把な学習指導要領にのっとりた授業の教え方、モデル的な授業なんですけど、この部分を少しずつ変えていこうということで武雄市が取り組むスマイル授業というのは、その一番最初の授業でやる狙いと1人学習。こういった知識を蓄えるところは一斉でやるよりも個々人が場所と時間を選ばずに自分のペースでやったほうがこれは効率がいいんじゃないか、これは実は学術的にはかなり認められていることですね、やっぱり同じものを習得するには、やっぱり子供たち2倍か3倍かかります。そういったものを取り出して、家庭で狙いと1人学習をやっちゃおう、そしてわからないところとか知識を蓄えた上で学校では社会性とか話し合い、学び合い活動に重点を置いていこうと。

さらに発展学習をし、ここももう1つポイントなんですけど、昨日お話させていただきましたが、タブレット1人1台持ってますので、最後に授業に定着のテストをやります。そうしたときにまだわからない、つまづいている子はさらに定着の復習の時間をとって家庭での反復学習につなげると。単なるひっくり返しというよりは、これ見ていただくように従来の学校の役割からですね、どんどんもっと学校のあるべき姿、そして個々人に寄り添った学習スタイルに変えていこうという意味合いが含まれているなということですね、これは既にもうアメリカでやっているフリップトクラスルームの翻訳では、志が低いだろうと。

武雄発、日本初の新しい学習モデルをつくっていこうということで、自分たちでこの学習スタイルに名前をつけていこうということで、先生方に公募をして武雄市独自でつけた名前がこのスマイル学習です。

スクールムービーズイノベイツザライブエデュケーションクラスルーム。SMILE（エス、エム、アイ、エル、イー）。

この頭文字を取って、子供たちがよりスマイル、笑顔になるような授業をしていこうとこういう思いを込めています。スクールムービーズイノベイツザライブエデュケーション。

先生の、学校のつくった動画によって教室が革新する、21世紀型授業を目指そうと、そういう思いとか志を込めてスマイル学習という名前に変えました。以上です。（拍手）

○議長（杉原豊喜君）

12番古川議員（発言する者あり）

○12番（古川盛義君）〔登壇〕

はい、わかりました。（笑い声）

あのですね、私はですね、単純にです、単純な男でございますので、子供が笑いながら授業をするようにスマイルなのかなと思っておりましたが、こんなに深い意味があるとは知り

ませんでした。(笑い声)

それですね、スマイル学習を今から行っていくわけですが、今後どのような成果を期待されるのかですね、そしてその成果をどのようにして検証されるのか方法も含めてお尋ねをいたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

もともとスマイル学習に取り組むに当たって、成果の前にどんな目的でこの授業スタイルに取り組んでいるのかということ再度御説明させていただきたいんですけども、子供たちはより意欲的に授業に臨める、もう少し言えばわくわくどきどきしながら学校に来れるような、そんな授業スタイルにしよう。つまりきょう何やるのかなとか、ここ、この前もわかんなかったからきょうもわかんないなというようなことじゃなくて、きょうこれやるからこんな発言をしたいとか、ここわかんなかったから聞いてみよう、そういうことですね、子供たちが集まる先生と一緒にやる授業をもっと能動的、自主的にできるような授業にしたいなというふうに思っています。

2番目、じゃあ今度先生がですね生徒の実態をより正確に把握して授業に臨もうと。つまり従来の授業だと先生が子供たちの顔色を見ながらですね、こう職人技ですね。あ、この子はわかってるかなとか、この子はどうかになっていうすごく職人技でやってみた部分をデジタルで客観的に、あ、この子はこの問題が解けていないんだという状況、教育用語でレジユネステスト、事前テストと言うんですが、そういったレジユネステストをしっかりとやることによって子供たちの状況を把握して授業すると。全員わかっているのか、2割わかっているのか、3割わかっているのか。そういうことをしっかり把握することで授業の内容も変えていこうというふうに考えています。

3番目、じゃあ授業は何をするのか。そういう前提ですね、より学び合いとか話し合い。これは協同的な問題解決能力、これはOECDとかで今21世紀型スキル、子供たちに身につけたい力として注目されている力ですが、コラボレーション、人と反発するんじゃなくて人の意見を聞きながらどう新しい解決策を見出していくのか。そういった力を育成させるような時間をじっくりとっていきたいというふうに考えています。

御質問に答えますが、こういった目標がありますので、ここを検証していかなきゃいけないと、これが大きな問題になると思います。実際にこの1番、2番、3番に関してはデータをきっちり毎回とっています。これは生徒のデータをとっていますし、先生方の本当に授業を正確に把握して授業改善できたのか、こういったものを毎時間データをとるようにしています。さらには保護者へのデータもこれからとるつもりです。

そうした集めたデータをこれは武雄市だけで分析するっていうのはなかなか難しいので、

今回ですね東洋大学の研究チームと協同してですね、この多大なるデータをどう分析して、より改善につなげていくのか。いわゆるP D C Aのサイクルにのせて、プランドゥーチェック、よりよいものに生まれ変わるように、そういった研究組織、バックボーンを持ちながらこういったもののスマイル学習の進化をさせていきたいというふうに考えています。

○議長（杉原豊喜君）

12番古川議員

○12番（古川盛義君）〔登壇〕

あのですね、実は私の孫も武内小学校の4年生なんでございます。ですが去年もですね、実はタブレットが6年生がたくさん卒業して余ったということで3年生ですか、3年生のときも使わせていただいております。それで今時々家に持って帰ってやりよるわけでございます。

今までですね、かばんをぼーんとほっぽりだして遊びに行くというのが毎日でございます。ですが、このタブレットをかばんに入れて持って帰ってですね、やりよるわけですね。何しよるかわかりませんが、こうやりよるわけです。ほんで、まあそこに30分なのか、まあ1時間はしませんが、15分か30分以内だと思います。それをやりよるわけです。今まで何にもしなかった子がですね、ちょっとしてみようかなと、やってみようかなというようになったような気がいたします。

それでですね、これ子供がそうになると、結局お父さんお母さん方もついておられるわけですね。それでまあスマイル学習というのがどんどん進んできますと、子供たちがどう変わったのかと、どういうふうに学校で勉強をしているのかということをやっぱりお父さんお母さん方に見せると、見てもらうということも必要じゃないかと思うわけでございます。

そこでです。そういう機会を親御さんたちに見せる機会、武雄市内でですね。昨日もスケジュール表がこう出ました。しかし普通一般のときですよ、きのう出たスケジュール表の日はどうしても行けないと。だけどきょうだったら行けるよというときにですね、学校に行けるのかどうかお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

（モニター使用）昨日より、いわゆる市民に広く知っていただくということでオープンデーを設けています。ただこの月2回、3回に合わないという方もいらっしゃると思います。このオープンデーはやっぱりその、こういう授業をやりましたとか指導案もちゃんと書かないといけないので当然学校側、先生たちも準備して臨むオープンデーになります。

それを期待していただくとやっぱりいろんなコミュニケーションとか、こう何であんな授業やったんですかというのは聞けますが、今古川議員の質問のようにちょっと見てみたいと、

様子を見てみたいというものに関して言うと学校長は、まあ指針にもよりますが少なくとも武内小学校ほかですね、ほとんどの小学校で保護者の受け入れ見学をしたいと言ったときに拒否する学校は少ないじゃないかなというふうには思いますので、きょうはちょっと時間があるので見に行きたいと、それは先生方の負担じゃなくて後ろからちょっと見たいということであれば、市内の学校の先生方に校長先生に言えば、それは機会としてはあるんじゃないかなというふうに思っていますので、そんな機会は気軽に設けていきたいし設けていけるような雰囲気をつくっていききたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

12番古川議員

○12番（古川盛義君）〔登壇〕

ぜひですね、開かれた学校ということでそのようにしていただきたいと思います。

そこで来年ですね、中学校にも同じようにタブレットが配布されるということで聞いております。今その中学校の生徒たちゅうのは、ほとんどの子がですね、タブレットを触ったことがないと思うわけですね。武内小学校と結局、山内東小学校の子供を除けば、初めてであろうと思うわけでございます。その導入のまあスケジュールとか先生たちの対応とか、どのようにされるのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

中学校のタブレット端末の導入に関しては、小学校の導入と同様にですね、武雄市小中学校タブレット端末導入選定委員の中で会議をつくり、そこで決定していくという形になります。その中で内容、スケジュール、機種端末の選定の仕方等を決めていくこととなります。

4月に再開をして、この選定委員を再開して委員を募り、委員会を発足する、再開するというスケジュールになっています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

12番古川議員

○12番（古川盛義君）〔登壇〕

あのですね、高校でいろいろ問題があったということも新聞で聞いておりますが、中学校でもスムーズに授業に使えますようお願いをしておきます。

次に官民一体型学校についてお尋ねをいたします。

何度も申しますが、私の地元であります武内小学校をモデル校として取り組みをスタートされております。まずモデル校に御指定をいただきありがとうございました。またはモデル校として責任の重さというのを感じておるところでございます。（笑い声）

そこで、どのようなところに主眼を置いて……（発言する者あり）（笑い声）官民一体型

学校をしていかれるのか、まずお尋ねをいたします。(発言する者あり)(笑い声)

○議長(杉原豊喜君)

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

(モニター使用)改めて誤解のないようにお伝えしますが、モデル校ですので。「(はい)と呼ぶ者あり)(笑い声)来年度、官民一体校になれるかどうかは別の問題だとは思いますが、モデル校に指定されたのはやはり大変名誉であるし、今後につながるように一生懸命やっていきたいなど、これは校長の立場として思います。(笑い声)

じゃあどういう学校経営方針でやっているのかというのを少しお話させていただくとすね、官民一体型のモデル校になろうが、そこはですねそんなにぶれるわけじゃなく、学校経営方針を考えています。これはよくある学びの学校経営方針ですが、武内のそれぞれに文字になぞらえて確かな学力、健康な体、美しい心、挑戦する気持ち。知・徳・体・志ですね。そういったところのバランスをとれるような子供たちを育ていこう。これは今年度の武内小学校の学校経営方針です。ただその中に、武雄市にもあります、学校教育方針の中に変化する時代に対応した力をどうつけていくのかということも武内小学校の中では考えています。そのときにどうしても既存の小学校の中で足りない部分、特に学力になる根幹となる部分とか、異学年で学んで体とか心を鍛える部分、そういった部分では今少し対応できてない部分に関しては、今年度モデル校になるに当たってそれをしっかりと吸収していこう、取り入れていこうと。

それも単に導入するんじゃなくて、先生方と一緒によいものになるようにつくりあげていこうというような学校経営方針として、先生方並びに保護者の皆さんには御理解をさせていただくように説明している状況です。

○議長(杉原豊喜君)

12番古川議員

○12番(古川盛義君)〔登壇〕

ちょっと、つけておいてください。(モニター使用)

あのですね、ちょっと利用させてもらいます。確かな学力ちゅうのは学校なんですね。健康な体ちゅうのは、これ家庭なんですね。美しい心というのは地域なんですね。それでですね、ここにこう三角形があるわけです。こう、したら正三角形ができるわけです。この真ん中に子供たちがおるわけです。その三角形これですね、あるところで聞いたんですが、これ三角形ちゅうのは英語でトライアングルちゅうんですね。あの愛のトライアングルと言う先生がおられたんですが、3つで支え合うというようなことを講演で聞いたことがございます。

それでですね、これはある大学の偉い先生から話を聞いたときに、学校で家庭で地域で一生懸命教育しても、医学部でどれだけ教えても、こんだけしかできない子もおるんだと。

だけどこの丸がとにかくとてつもなく大きくなるお医者さんもいらっしゃる、スーパー
ドクターですね。だからこの円を、個人の能力いろいろあると思うんですが、この円を大き
くするという努力がその学校、今からの教育ではなかろうかと私は思うわけでございます。

先月ですね、27日の日に花まる学習会御茶の水校というところに視察に行ってみました。
これですね、ほかの学習塾もだいぶん見たんですが、全く違うところではございました。
まあ進学や受験のための塾ではないというのは聞いておったんですが、とにかく全く違うと。

子供たちは、その先生にどんどん言われるがままに、ぱっぱっぱと切りかえて
いくと。頭がこんなに切りかわるものなのかなと私は思いましたが、私の老化現象のある頭
ではちょっとですね、ああいう切りかえはできないと思いましたが、子供たちはそれをやっ
ておりました。

ほんで、まあ入り口のところに、たくさん教材をこう並べてあったり、子供たちが使いよ
る教材を見たときにですね、とにかく教材はすばらしいなと。この教材はすばらしいと。こ
んなのを使ってやれば、そらあできるだろうなと思いました。

そこででございます。花まる学習会のノウハウを取り入れた授業を行うということでござ
います。すべてが、すべてその花まる学習会を入れるということはまず無理であろうと思
いますが、朝の10分間、15分ということでございました。

それをやって子供たちを、武雄の子供たちをどのような子供たちに育てていきたいと思っ
ておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

官民一体校を通じてどんな子供たちを育てていきたいかと、ということですが、ここで今、
図にあるようにスマイル学習の話をさせていただきましたが、目指す子供像というのは同じ
かなというふうに思っています。

花まる学習会と組むのもいろんな手法をするのも、子供たちをとにかく大人になったとき
に自立できる、メンが食えるような大人になる。たくましくもしなやかな子供たち、大人へ
育てる。

これがまあ最大の目標ですので、その部分でいうとその目標に向かって、じゃあ短期的に
日々の活動でどうなのかといたら、子供たちがやっぱり笑顔をいつものよりも楽しくなれ
るな、声を発散していいんだ、そういった多少けんかがあっても、もめ事があっても乗り越
えていけるんだ。そういったたくましさを身につけ、そういった花まる学習会の手法を取り
入れながら、単に学力だけじゃなくて、たくましい子供たちをつくっていきたいというふう
に考えています。

○議長（杉原豊喜君）

12 番古川議員

○12 番（古川盛義君）〔登壇〕

たくましい子供を育ててほしいと願うのは、すべての方がそうであろうと思います。

そこでです、現在花まる学習会のノウハウを取り入れた授業が行われている学校は、長野県だけなんですか。ちょっとそれを聞かせてください。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

私どもが花まる学習会から聞いている、その今、花まる学習会の指導方法をやってるのは、長野県の中で青木村というのは10年前から始まったんですが、今、最もやっているという状況の学校が北相木村の学校でやっているというふうに聞いて、そこには教育委員会のほうからも視察に行かせていただいている現状です。

○議長（杉原豊喜君）

12 番古川議員

○12 番（古川盛義君）〔登壇〕

あのですね、先日、武内小学校のある先生にお会いしてですね、どがんですかとお尋ねをしたところ、その先生がですね、子供たちのためになるなら一生懸命頑張りますと、それが私たち教師に与えられた使命ですと言われました。ありがたい言葉でございます。

まあ結局、保護者の方も、武内の自然の中に教育するために移ってきたという人もいらっしゃいます。その一方で、どんどんやってくれと言う保護者さんもいらっしゃいます。

そういう賛否両論ある中で、モデル校としてやっていくわけでございますが、ぜひですね、現場の先生方にもですね、長野県に行くのはちょっと大変でしょうから、東京の花まる学習会の教室に行っていていただいて、現実のですね、花まる学習会がこうなんだということを見ていただくと、感じていただくということも必要ではないかと私は考えますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いやあもう全く同感ですね。やっぱりこれ百聞は一見にしかずだと思っていますので、それは昨日も答弁したようにね、ぜひ保護者の方にも行っていただこうと思っています。それが長野県の小学校になるのか、花まる学習会、まあ東京になるのか。あと福岡で提携をしている塾もありますので、それは行かれる学校の先生方のスケジュールを最優先してね、やっていきたいなっていうふうに思っています。

今でも特に小学校の先生はもう研修で大変なんですよ、研修で。ですので、さらにこう加

えるのではなくて、なんかさっ引いてでもね、やっぱり行ってなるべくそういった子供に向き合う時間を確保しつつね、それ以外の時間なるべく短縮できるようにね、我々としても意を配ってまいりたいと思っております。

そのときの、ぜひ引率団長にどうぞ。

○議長（杉原豊喜君）

12番古川議員

○12番（古川盛義君）〔登壇〕

今、市長からあのですね、先生たちが忙しいんやということでございますが、まあ、ぜひですね教育長さん、そういう研修とか報告文書あたりをですね、とにかく簡素化していただいて先生方にですね。

以前ありましたね、ゆとり教育っちゅうて、結局先生たちの時間をつくるためのどうのこのちゅうのがですね。ですが、そういうことを抜きにしまして、とにかく先生方にそういう時間をつくって自分の研修できるようにですね、してほしいと。それが武雄市の子供の教育に本当の研修をしてほしいということですね。

武雄のすばらしい子供、メシの食える子供たちが1人でも多く育ちますように教育委員会、代田教育監の市長以下御協力をお願いいたしまして、私の一般質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、12番古川議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、10分程度休憩をいたします。